

# やまぐちっ子 学力向上だより

第 5 2 号 H25. 10. 10

山口県教育庁義務教育課

## 授業アイデア例等の活用



9月末、各学校に、国立教育政策研究所から、平成25年度全国学力・学習状況調査報告書と授業アイデア例が届いていることと思います。

この授業アイデア例は、調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業アイデアの一例が示されたものです。また、報告書には、指導に当たっての留意事項が具体的に書かれています。本調査で見られた課題については、調査の対象学年のみならず、全学年を通じた系統的・継続的な指導によって改善していくことが大切であることは、ご承知のとおりです。

各学校において、日々の授業や研修などの様々な場面で、4月に送付された「解説資料」、今回送付された「報告書」「授業アイデア例」を活用し、さらなる授業改善を図っていきましょう。

報告書や授業アイデア例は、過年度分も含め、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されています。

国立教育政策研究所教育課程研究センターウェブページ

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

## 授業アイデア例を基にした授業改善



本校の子どもたちは、算数B5(2)の「割合が同じ場合の比較量の比べ方の説明」に課題がありますね。

それぞれの学年で、どのような授業を行えば、課題改善につながるのでしょうか？

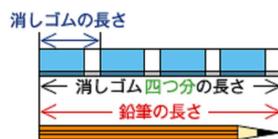
授業アイデア例に、基準量、比較量、割合の関係の理解を深める素地となる各学年の授業例が掲載されていましたよ。



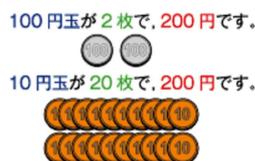
やはり、全学年で系統的・継続的な指導をすることが大切ですね。このアイデア例には、他にも多くの具体例が示されているのですね。

## 各学年の割合に関する授業の例

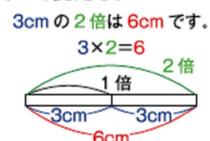
**第1学年「ながさくらべ」**  
例「消しゴム四つ分の長さが、鉛筆の長さになります。」  
→基準となる長さを基に、長さを測定する。



**第2学年「1000までの数」**  
例「200は100が二つ分の数です。また、10が20個分の数です。」  
→10や100などを単位として数の大きさを捉える。



**第2学年「かけ算」**  
例「3cmの二つ分のことを3cmの2倍といい、 $3 \times 2$ と表します。」  
→二つの数量の関係を倍を使って捉える。



学力定着状況確認問題児童生徒質問紙

10月30日(水)を基準日として実施される「学力定着状況確認問題」では、以下のような児童生徒質問紙を提供します。各学校には、調査項目について、事前にお知らせしているところですが、質問項目を意識した授業改善を進めることが、児童生徒の学力向上につながります。

- (1) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
- (2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
- (3) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。  
(3)は、小学5年～中学2年を対象とした質問
- (4) 家で、学校の宿題をしていますか。
- (5) 授業の中で分からないことがあったら、どうすることが多いですか。
- (6)
  - ① 普段の授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思う。
  - ② 普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思う。
  - ③ 普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う。
  - ④ 普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。
  - ⑤ 普段の授業では、先生の話や友達の意見を最後までよく聞いていると思う。
  - ⑥ 国語の勉強は好きだ。
  - ⑦ 国語の授業の内容はよく分かる。  
⑭⑮は、中学1・2年を対象とした質問
  - ⑧ 算数の勉強は好きだ。                      ⑭ 英語の勉強は好きだ。
  - ⑨ 算数の授業の内容はよく分かる。       ⑮ 英語の授業の内容はよく分かる。
  - ⑩ 社会の勉強は好きだ。
  - ⑪ 社会の授業の内容はよく分かる。
  - ⑫ 理科の勉強は好きだ。
  - ⑬ 理科の授業の内容はよく分かる。

児童生徒質問紙調査の結果の活用

今年度の全国学力・学習状況調査結果から、携帯電話やスマートフォンを持っていない児童生徒の平均正答率は、携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしている児童生徒と比べて高い傾向が見られました。

一例ではありますが、教科に関する調査結果と生活習慣等に関する調査結果の相関関係は、生活習慣や学習習慣の改善を図る上でのよい資料となるのではないのでしょうか。また、このような資料を家庭や地域に提供することで、相互の連携も一層深まるのではないかと考えます。

